

復興ニッポン cha・cha・cha!

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする<支え合い、助け合い、協働>のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの?」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。(※chaは「care」「help」「act」の頭文字) 発行: 仙台市災害ボランティアセンター

◆災害ボランティア・スナップ◆

被災者の方を応援するため、1日でも早く普段通りの生活を取り戻していただくため、活動する災害ボランティア。活動の様子を、写真でお伝えします。

◎ボランティア受付の横を彩る桜。避難所の古城小から届けられた春の香りです。(左)

◎まだ固い、つつじのつぼみ。もう少ししたら花どきです。避難所の八軒中にて。(中)

◎泥かき隊が、チームごとに出発前のミーティング。装備もばっちりです。(右)



現場で活動する災害ボランティアの声をお届けします♪

小学校を卒業して、中学校がはじまるのが4月 21 日から。平日は塾があるけど、土日は少年野球も終わっちゃって、やることなく、体がなまっているから来ました。(男子 新中学生)

子どもの春休みが長く、放っておくと何時まででも寝ているので。私も仕事先の建物が壊れて休みなんで、青葉区の自宅からバイクに二人乗りで来ました。泥かきをしようとアウトドアの格好で来ましたが、インドアでしたね。(父 40 代 大学教員 青葉区在住)

【ボランティアの声・こえ】

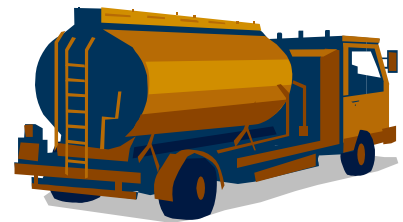
親子でいっしょに
休日ボランティアです。

ネットで知り、はじめは太白区のボラセンに行って、個人宅の片づけをしていたんです。依頼件数が少なくなってきたので、3月末からは若林区のボラセンに来ています。個人の家とか老人ホームとか、松の木や車が散乱しているところで泥かき作業です。ヘドロがすごく重いので、すごく疲れます。それでも来ているのは、やったことへの自己満足ですね。土木関連の仕事をしていましたが、この震災で失業。このつなぎは、家庭菜園で野菜を育てるときに着ていたものです。今朝は、ちょっと遅かったので、泥かきにあぶれてしまいました。一緒にボランティアをした12歳の子、来るだけ気持ちが立派ですよ。(男性 40代 太白区在住)

【ボランティアの声・こえ】
家庭菜園用のつなぎを着て泥かきしています。

【ボランティアの声・こえ】
タンクローリーの運転手ですが遊んでられないので。

仙台空港に飛行機の燃料を運ぶ、タンクローリーの運転手をしています。塩竈の会社が水をかぶって、休みになりました。新聞でボランティアのことを知って、電話して来たんです。前回



は老人ホームの汚れた家具や床の清掃。泥を洗い流しますから、全身が汚れます。今日は曇はこび。親戚が海岸線にいて亡くなっていますから、気持ちのうえでも遊んでられないしね。(男性 50代 若林区在住)

朝10時から15時まで、依頼があった家の周りのがれきを、ひたすら撤去しました。泥まみれのアルバムが見つかったら寄せておいて、家の方に確認。ほかの家のものであれば、落ち着いたら警察に届けていただくようにお願いします。がれきの山は小さく見えても、意外にてごわくて、何回も運ばないと終わりません。4日継続して泥かきするうちの、今日は2日目。駐車場あたりが一掃できたので、その達成感があります。(男子 18歳 大学新入生 太白区在住)

【ボランティアの声・こえ】
ひたすらがれきを撤去して思い出の品はそのままに。

※泥かきを依頼した方からは、「みなさん一生懸命で頭の下がる思いです」と言葉が。

このあたりは年配の一人暮らしの方が多く、男手がありません。3時間でも手伝って、一軒でも片づけができればと思っているんです。ボランティアをはじめたきっかけは、お店のお客さんから「片

【ボランティアの声・こえ】
仕事を調整して1日3時間1軒でも片づけができればと。



づけを手伝っているんだ」と聞いてから。うちの店はガラスケースが壊れはしましたが、営業できているので、土・日は仕事。平日は、午前中に仕事をして、午後は従業員にまかせて3時間ボランティアをしています。今日も個人宅の片づけをしてきました。これから戻って、店を閉める19時まで仕事です。ゴールデンウィークまでボランティアを手伝って、それからは本業に力を入れないとね。(男性 50代 アウトドアショップオーナー 宮城野区在住)

◆活動レポート in 避難所◆

力仕事はおまかせ！男性チーム 10 名が避難所へ



●作業内容の説明

避難所の八軒中に到着。運営ボランティアの方から、作業内容を聞きます。畳はこびと毛布たたみの2班に分かれて作業することに。



●毛布たたみは3名で開始

避難所で使われなくなった毛布を、5枚ずつひもでまとめます。「こういう仕事、ニガテだー！」という新中学生の息子に、「自分の布団もたたまないのになあ」と親子で参加したお父さん。ひもでくくる作業が得意でないメンバーが集まってしまったと3人で言いながらも、手際よく進んで、1時間できれいに。



●畳チームは 500 枚を片づけ

避難している人数が減ったので、使っていた畳 500 枚を武道館へ移動。ボランティアの間では、体を動かしていい汗をかく作業が人気です。

●休憩

1時間活動したら、15分休憩。ボランティア同士で、お菓子をわけあっこ。親子ほど年代の離れたボランティア同士も、話はずみずみ。



●ふたたび、全員で 500 枚の畳はこびが完了！

●お昼タイム

お弁当やおにぎり持参で、昼食タイム。しっかり食べた後は、また活動再開です。



Check Point!

使い終わった道具はキレイに手入れ。
泥かき現場からボランティアセンターに戻ってくると、まず道具を洗います。次の人が気持ちよく使えるように、衛生的に洗った道具類は、支援班で管理しています。

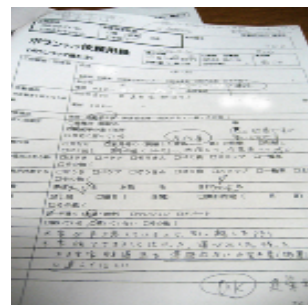


- 長靴や道具は、高圧洗浄機でシャーツ(左)
- こちらは、シャワーで丁寧に手洗い(中)
- ゴム手袋は、ブラシでシャカシャカ(右)

災害ボランティアセンターには、多くの人が入れ替わり立ち代り活動にやってきます。そんなみなさんが気づいたことが運営の進化、スムーズな体制づくりにつながっているのです。

●依頼書ごとに報告書をセット いつでも、誰でも、引き継ぎ簡単

書類や運営方法を、状況に合わせて工夫していくのも大切なこと。若林区ボラセンでは、「ボランティア依頼用紙」と、対応したボランティアが記入した「活動終了報告書」を、一つにまとめています。というのも、継続依頼の場合、日々活動するボランティアが変わっても、活動の流れや状況がすぐにわかるから。ボランティアに行く側も、迎える側も、やりとりがスムーズになるひと工夫です。



●ひとつの避難所に一冊引き継ぎノート

その日の活動内容、困ったこと、改善案など、自由に書き込める「引き継ぎノート」。ボランティアからボランティアへと引き継がれ、より快適な避難所運営をするための工夫がなされています。



仙台市災害ボランティアセンターの概況 2万人を超える市民が活動！

今回の大震災発生後にまず設置されたのが青葉区災害ボランティアセンター。続いて各区にボランティアセンターが設置され、被災者を応援するため多くの災害ボランティアが活動しています。これまでの活動経過をお知らせします。

期間	V受付数（人）		要請数（件）		活動延べ人数（人）		
	計	1日平均	計	1日平均	計	1日平均	
3/15～3/21	3974	542.0	958	136.9	3571	510.1	
3/22～3/28	6072	867.4	1288	184.0	6204	886.3	全区設置 26日
3/29～4/4	5464	780.6	1161	165.9	6141	877.3	

編集後記

震災後、私の生活も一転しました。ボランティア活動と並行して、ハローワーク通いと物件探しの日々。いろいろ行動する中で、非常事態だからこそ見えてくる、残念な人間性を目の当たりにした事もありました。そういう状況下で、本当に自分に必要な人・物・情報などを自分で選択する、その重要性を痛感したところです。震災に便乗した商売をするのではなく、企業やお店も「思いやり」「助け合い」の精神で地域復興のために一役買って頂けると、震災前より素晴らしい日本になるでしょう！（山田裕美）

発行：仙台市災害ボランティアセンター 広報班 黒田

TEL022-262-7294 <http://www.ssvc.ne.jp/> 当紙がWEBで読めます！

編集：広報ボランティアチーム 遠藤、大谷、木村、佐藤、茂木、山田

連絡先：仙台市災害ボランティアセンター Eメール sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp

